

富澤純一先生メモリアル—分子生物学の原点から未来は見えるか—

日 時：12月7日(木)16:00～18:30

会 場：第2会場(神戸ポートピアホテル 本館 地下1階 偕楽2)

オーガナイザー：升方 久夫(大阪大学)

荒木 弘之(国立遺伝学研究所)

日本分子生物学会・日本遺伝学会の名誉会員であった富澤純一先生が本年1月に亡くなられました。富澤先生は、日本では分子生物学の黎明期に大きな貢献をされるとともに、Genes to Cellsの創刊、さらには私財を投じ「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」を創設され若手の育成にも努力されました。本ワークショップでは、富澤先生の薫陶を受けた研究者、また富澤純一・桂子基金の助成を受けられた方の中から、最先端の研究の講演をお願いし、生命共通の分子機構を追い求める思考法や手法に焦点を当てたいと思います。そして、分子生物学の原点に立ち戻り、分子生物学の今と今後の方向性をも議論したいと考えています。

16:00～16:05 Introduction

荒木 弘之(国立遺伝学研究所)

16:05～16:35 Intracellular molecular-patterning that controls bacterial cell biological processes: Thoughts on the utility of reconstituted cell-free model systems, with memories of Dr. Tomizawa LOD

Kiyoshi Mizuuchi(NIDDK, National Institutes of Health) LOD

16:35～16:57 ColE1 DNA 複製研究の意義—30年を経て

升方 久夫(阪大・院理・生物科学)

16:57～17:19 Synaptic epitranscriptomics and RNA imaging LOD

Dan Ohtan Wang

(Institute for Integrated Cell-Material Sciences (iCeMS), Kyoto University / The Keihanshin Consortium for Fostering the Next Generation of Global Leaders in Research (K-CONNEX))

17:19～17:41 植物の分化全能性研究から見えてきたRNA代謝と転写のクロストーク LOD

大谷 美沙都(奈良先端大・バイオ / 理研・CSRS)

17:41～18:03 栄養と発育をつなぐ神経内分泌機構の研究 LOD

島田(丹羽) 裕子(Univ. of Tsukuba)

18:03～18:25 ショウジョウバエ視神経シナプスの可塑的変化を制御する遺伝子 LOD

鈴木 崇之(東工大・生命理工)

18:25～18:30 Conclusion

荒木 弘之(国立遺伝学研究所)

升方 久夫(大阪大学)

※ LOD Lecture on Demand: オンデマンド配信あり